

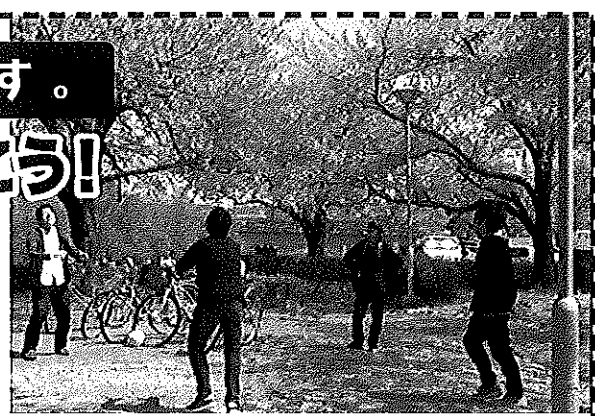
こちらフリースクールです。 それぞれのペースで進んでいこう!

フリースクールも新年度が始まりました。昨年度頑張った受験生は、買ったばかりの高校の制服に袖を通し、少し大人っぽくなった姿を見せに来てくれました。まだ慣れないネクタイの結び方を先輩から伝授されるという微笑ましい光景も。新しい環境は大人でもドキドキします。新しい人と繋がったり、新しい場所に慣れたりすることは、すごくエネルギーを使うから。フリースクールには、緊張をほぐしてくれる空気がありますが、それでも初めてここに来るのは誰でも緊張すると思います。その初めは緊張した場所を、自分の安心できる場所にしていく力を、子どもたちはここで獲得していくのかもしれない。

春は何かと焦りも感じる時期です。新しい環境に入る人を見ると、自分は何も変わらないような気が

して焦る、なんて経験ありませんか?しかし、現状を維持することもすごく頑張っていることです。フリースクールに通っている子どもたちは、それぞれのペースで確実に前に進んでいます。人と比べなくてもいいんです。

ビーンズには、年度初めに、スタッフの研修会があり、今年度は、フリースクールに通う子の体験談を聞かせてもらう機会をいただきました。学校に行きづらくなった理由は、本人にもわからないことの方が多く、だからこそ苦しい時もあります。それぞれの道筋でフリースクールに繋がり、それぞれのペースで居場所を獲得していった彼ら。いろんな体験、経験をする中で、どう自分が変化したのかを語ってくれました。「人と話すことで会話の力がついた



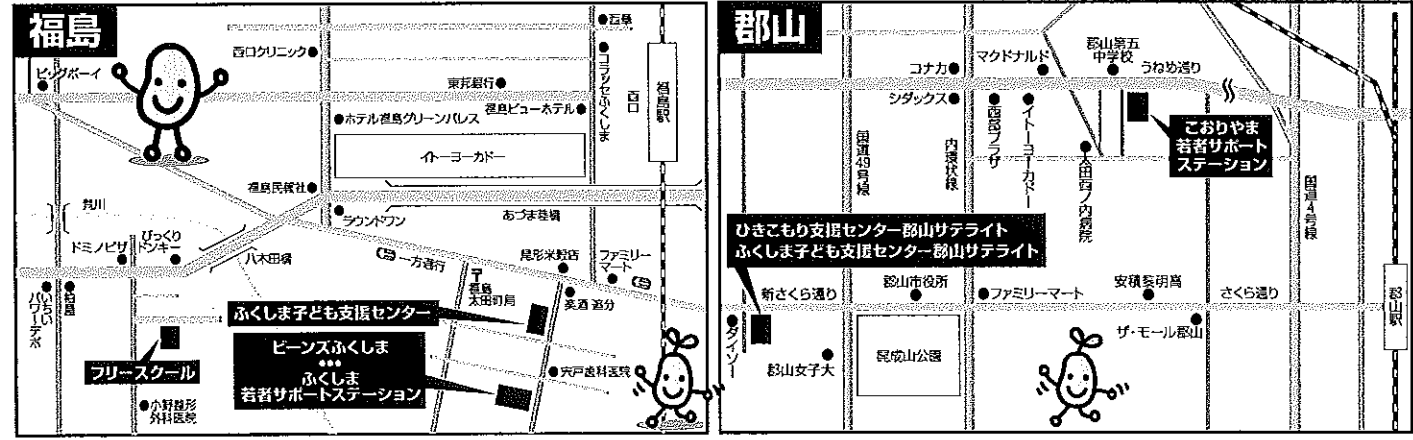
り、人の目を気にしすぎなくなった。」「ここに来て、いろんな生き方があっていいし、自分もなんとなくののかなと思えるようになった。」「キャンプや合宿でみんなで片付けをする中で、先輩の姿を見て、自分はみんなの中の役割としてどう動いたらいいのかということを考えるようになった。」「彼らの言葉には、彼らにしか語れない強さがあり、私たちの心に響きました。」「人でも多くの子が、安心できるその子の居場所と繋がれるように、彼らの声や思い、フリースクールが活動する意義を、多くの人に届けていきたいと感じました。

これからの活動予定

- 第14回定期総会
6月19日(日)13:30~15:30
福島市市民会館 第2ホール(福島市霞町1番52号)
- 親の会(不登校のお子さんがいらっしゃる保護者の会です)
5月21日(土)13:30~15:30
福島市男女共同参画センター ウィズもとまち
3階 中会議室(福島市本町2番6号)
参加希望の方は「ビーンズふくしま」までご連絡ください。

編集後記

今年は桜の便りが早く、あっという間に春が通り過ぎたように感じられました。その中で新入生・新社会人の皆さんが新しい服に袖を通し、桜舞い散る道を歩いている姿はどこか自信に満ちていたり、不安気だったり。これからたくさん経験をしながら、自分の道を模索していくんだなと思いました。私もビーンズに入社した頃のワクワクやドキドキした気持ちを忘れず、毎日楽しみながら邁進していこうと思いました。



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

ビーンズ通信 Vol.75

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

●発行日/2016年5月10日

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

「学び」とつながりの 広がりをめざして

新年度のあいさつに先立ちまして、熊本地震により被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。皆様に安全と安心が少しでも早く訪れますように、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

今年の桜は思いのほか早く、穏やかな新年度のスタートと思っていたところに飛び込んできた震災の報道に、心揺さぶられる方も多かったことと思います。あれから5年、あっという間だったようでもあり、長かったようでもあり、でも確実に時は進んできました。心の揺れを受け止めながら、また、今回の震災に私たちのできることも考えながら、今年度のビーンズふくしまの取り組みを進めていきたいと思っています。

さて、昨年度は全国若者ひきこもり実践交流会という大きな大会開催の取り組みをしながらの一年でした。全国の皆様のご協力にあらためて感謝申し上げます。おかげさまで様々

な学びをさせていただきました。子ども若者を取り巻く、多くの課題をあらためて実感できたとともに、その課題解決のヒントをたくさんいただくことができました。

今年度は、実践交流会で語り合われたことを、法人内においてあらためて学びつつ、実践に生かしていきたいと思っております。各事業、日々業務に追われがちになりがちですが、視野の広がりの中での取り組みをしていくためにも、「学び」の時間を確保し、その学びを子ども若者支援の新たな力にしていきたいと思っています。

また、今回の実践交流会の取り組みの中であらためて実感した地域連携への取り組み…まず、もっと多くの人たちに子ども若者支援の必要性を伝えていかななくてはならないことです。現在共に取り組んでいる仲間たちに加え、子ども若者支援とは今



▲4月20日に行なった年度はじめの会の様子

まであまり関わりのなかった方々にも、伝えていき、地域の連携を広めていくことが、子ども若者支援の広がりになっていくことになるのだと思います。

そのためにも、気持ちと時間にゆとりを持ちながら、今年度の取り組みを進めていきたいと思っておりますので、皆さまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



NPO法人
ビーンズふくしま
理事長
若月 ちよ

NPO法人ビーンズふくしま 第14回 定期総会を 開催いたします

今年もまた定期総会の季節を迎えました。ビーンズふくしまがそれぞれの事業を通してどのような取り組みをしてきたのか、これからどんな取り組みをしていくのか、皆様にお伝えするとともに、一緒に考える会にしたいと思っております。

お忙しいところは存じますが、ご出席のほどよろしくお願い申し上げます。

- 日時
平成28年6月19日(日)
午後1時30分~3時30分
- 場所
福島市市民会館 第2ホール
(福島市霞町1番52号)

震災から5年、 ビーンズから見た 子どもたちの今。



あの震災から5年が過ぎました。ビーンズふくしまは、それぞれの事業の活動を通してそれぞれの時を過ごした子どもたちと共にこの5年を歩んできました。そんな子どもたちの「今」の姿を、見つめてみました。

つくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト県北

子どもの日常を ともに過ごして

震災から5年、帰宅後の子どもの過す場として私たちが学習支援という場を仮設住宅の集会所で開くようになってからも4年半がたちます。一緒に遊び、勉強をし、おやつを食べて過ごすなかで子どもが私たちに話すことは、家族や友人のこと、テレビやゲームのこと、学校や先生への不満など、同年代の子どもと変わりはありません。震災のことやその影響について話すことはごく稀です。住環境や登下校にスクールバスで数十分かかる学校への在籍などから

くる様々な制限がある生活ですが、現在の生活が彼らの日常であり、家族や同じ仮設に住む子ども、同級生や学校の先輩の姿を見ながら現在と将来に向き合っているのも、同年代の子どもと同じでしょう。

毎回集まる子どもの姿からは、学習支援の場も彼らにとっての日常であることが感じられます。そこでの子ども同士やボランティア、スタッフとの関わりの中で、高校生になりボランティアとして参加する姿や進路の選択を前に熱心に大人の話聞く姿を目にし、「こういう(ビーンズのよう)な仕事もいいな」という言葉を聞く、この場で彼らが感じてきたことの一部が見える気がします。

つくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト県中

子どもの「今」に 寄り添い続けて

東日本大震災がおこってから5回目の春が巡ってきました。避難でバラバラになった子どもたちをつなぎ、子どもを中心にした居場所やコミュニティづくりを目指してきましたが、5年経った現在でも三春町の仮設住宅の拠点と郡山市内のビーンズ事務所を拠点としながら、学習サポートや遊び、体験活動などを居場所で展開しています。最初は小学生で参加していた子どもが卒業、集まって高校への期待や不安なども話す年齢になりました。今は、その弟や妹の世代に

中心は世代交代しましたが、変わらず「居場所」に集い、楽しい時間を過ごしています。

避難先に再開したサテライトの学校に通っている子が多く、また、夏祭りのために故郷の太鼓の練習をしたり、田植えやデイキャンプ、スポーツ活動などを通しての協同体験も活動に組み込んでいるので、時々避難する前の故郷の話も出たり、共に過ごす仲間との関係も濃密で、とてもいい集団になっています。

今後、復興公営住宅への移転や故郷への帰還等で生活が変化します。それぞれの選択があります。それでも、これまでのつながりや協同体験が、子ども達の根っこになっていくのを感じています。

つくしま子ども支援センター

自主避難する親子への 支援からみえること

つくしま子ども支援センターでは、県外に自主避難している親子と県内に戻ってきた親子を対象に話を開催しています。そこで出会う子どもは未就学児が多く、震災後に誕生した子どもということもあり、被災しての不安やストレスを強く感じている様子は私たちの関わりの中ではあまり感じられません。

ただ、震災から5年が過ぎ、当時小学生だった子どもは中学・高校生と成長していて、その様子は見えません。震災という異常事態からそ

れぞれの日常を過ごしていく中で、これまでの気持ちや体験を振り返り、整理していく作業ができていくのだろうか？避難した時の気持ち、違う土地での生活、新しい学校、家族が離れて暮らすこと、県内にもどること・子どもが安心して、悩みや思いを話せる場所はあるのだろうか？

震災当時は小さい子どもは母親の影響を受けやすいため、子どもが健やかに成長するためにも、まず母親への支援が行われてきましたが、今、成長していく子どもにとって、十分な支援がされているのか気になっています。今後のつくしま子ども支援センターの取組みの中でも、意識して情報を集めていければと思っています。

みんなの家@つくしま

今こそ、「あそび」を 取り戻そう!!

「わあ〜!ぎゃはは♪」毎日、みんなの家では子ども達の元気な声が響いています。廊下でトランプ、オムツ替え台の下でかくれんぼ、台所でだるまさんがころんだ…。ありとあらゆる場所を見つけては、遊び倒す様子によく福島の子も達が本来の姿を発揮し始めた!と、嬉しく思います。

先日、飯坂サポーターズクラブさんのご協力で「冒険あそび場」を開催しました。平日の企画にも関わらず、103名が参加しました。いかに、福島

の親子が「外あそびを欲しているのか」が、分かる数字とも言えます。初めは、遊び方が分からず公園の遊具で遊んでいた子ども達でしたが、鍋やおたまで砂遊びを始めたり、木の板で大工遊びをしたり、チョークでお絵かきしたり…。一日中泥んこになりながら遊びました!

原発事故の影響で、外あそびを制限された5年間のブランクはあったけれど、まだまだ「あそびを取り戻せる!」と実感した一日でもありました!子ども達が安心して遊べる環境を整えるのは、私たち大人の仕事です。今日も、子ども達が思いっきり遊び倒せるように、みんなの家で待っています!

T O P I C S 子どもたちに 必要な支援をめざして

~ワールド・ビジョン・ジャパンとの協働事業への取り組み~

若月ちよ

いま日本では、所得格差の拡大や少子高齢化の進行など、日本の経済・社会構造の変化によって、子どもたちや若者たちが、既存の社会保障や福祉のセーフティネットなどはさまに落ちてしまう状況にあります。また、それらを利用する力が弱いため、困窮からの脱却や生活上の困難が解決できない家庭も増えています。そうした家庭の多くは、複合的な背景を抱え、地域のコミュニティからも孤立しがちなため、そこで育つ子どもたちは、外部からの支援を必要としてもそれに繋がる事ができず、発達諸段階における様々な機会を奪われたまま成長することになります。

一方、東日本大震災から5年経過した現在も、被災地では仮設住宅等での避難生活を余儀なくされています。長引く避難生活により、これまでの親戚や地域コミュニティとの物心両面におけるつながりが途絶え、孤立と困窮を深める家庭が見られます。家庭が疲弊する中で、保護者の抱えるストレスの影響が子どもにも及びがちです。また、狭い仮設住宅で生活を続ける子どもたちは、遊びや勉強などの子どもにとって大切な活動に制約を抱えています。

福島県においては、特に原発事故の影響により長引く避難生活を余儀なくされている現状です。貧困や震災の影響により、生活上の著しい困窮や困難を抱える家庭の子どもたちは、「学校」「家庭」「地域」において、受けることができる取り組みを十分受けることができない状況にあり、そうした中で、本来持っている生きる力、

豊かな人生を送るための力を自ら使うことができない状況に置かれているのです。

そんな状況の中、「特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン(世界の子供を支援する国際協力NGO)」とビーンズふくしまは、そうした子どもたちに必要な支援を提供するために、協働事業を実施することとなりました。

この協働事業では、福島県の子どもたちが生きる力を育み豊かな人生を送ることができること、より多くの子どもたちが豊かに育つ社会づくりに貢献することを目標とし、子どもたちの環境が、「安心」「学ぶ機会」「地域の支援体制」の3つの観点から改善されることを目指します。

今回実施する事業は、「生活困窮家庭の子どもへの支援」、「仮設住宅等で生活する子どもの支援」、そしてその取り組みの中で子ども支援に関するノウハウ・学びを蓄積し、発信することも行っていきます。

今年4月から1年半、活動を進めていく予定です。初めての協働事業という取り組みですが、子どもたちにとって必要な支援をめざして、ワールド・ビジョン・ジャパンのみなさまとのパートナーシップを大事にしながら進めていきたいと思っています。事業の詳細につきましては、あらためてお伝えいたしますので、お楽しみにしてください。

